

三木市内の神戸層群の形成が 約3,600万年前であることが判明 ～ 市史編さん関連調査により判明 ～

三木市史編さん事業の自然・環境部会に関連し「神戸層群細川累層与呂木凝灰岩」に含まれる鉱物（黒雲母）の放射年代測定を行ったところ、約3,620万年前に形成されたものであることが分かりました（誤差は前後200万年）。

神戸層群は従来、植物化石などから約1,500万年前の第一瀬戸内海に堆積したものとされてきましたが、近年は凝灰岩中の鉱物や一部の植物化石群の年代から、約3,600万年前の古第三紀始新世のものであると考えられるようになってきました。

今回の年代測定結果はこれと一致するものであり、三木市内の露頭で見られる神戸層群の地層は、日本列島が大陸縁に位置していた時代の低湿地帯の蛇行河川や小さな湖沼に、火山灰（凝灰岩）や泥や砂（泥岩、砂岩）等が堆積して形成されたものであると考えられます。

- | | |
|---------|---|
| 1 調査者 | 三木市史編さん委員会通史編専門委員会自然・環境部会 (部会長 坂口隆康) |
| 2 分析依頼先 | 株式会社 蒜山地質年代学研究所 |
| 3 調査日 | 岩石サンプル採取 令和元年5月29日(水) |
| 4 採取場所 | 三木市与呂木美囊川潜水橋付近 |

問い合わせ先 三木市総務部市史編さん室
電話 0794-83-1120